

各組合の紹介

■横須賀大工組合

1. 設立年月日
 - ・大正年間、横須賀市大工請負業組合として発足しました。
 - ・終戦の混乱期後の昭和28年4月1日に、約60名で横須賀大工組合として再結成され、昭和30年12月、組合員67名で横須賀建設工連合会に参加しました。

2. 歴代の組合長

	昭和28年～31年	齊藤 喜久蔵	平成元年～5年	青木 明義
	32年～35年	三上 千代造	6年～7年	村田 次弘
	36年	大矢 袈裟太	8年～14年	朝倉 輝充
	37年～41年	佐藤 惣吉	15年～20年	番場 為治
	42年～43年	鈴木 幸蔵	21年～28年	金崎 富男
	44年～46年	前田 七之助	29年～現職	杉山 幸保
	47年～53年	田村 正三		
	54年～56年	駒林 喜弘		
	57年～63年	吉川 郁郎		

3. 現在の役員

	相談役	金崎 富男
	組合長	杉山 幸保
	副組合長	曾我 敏夫
	幹事長	村田 勝
	会計	近藤 好広
	副会計	芹澤 昌宏

4. 支部の統合
 - ・昭和35年北下浦工業組合、大楠大工組合、長井町工業組合、武山工業組合の4支部が横須賀大工組合に加入しました。
 - ・長井町工業組合は大正年間、武山工業組合は昭和3年1月22日に組合長齊藤玉次郎氏で発足しました。
 - ・4支部の組合員数の合計は昭和47年頃約130名でしたが、平成15年度には約50名です。
 - ・現在、長井支部・大楠支部が活動しています。

5. 組合員数
 - ・令和5年3月31日現在 176名

6. その他



包丁研ぎ（長坂町内会）
平成30年4月22日



よこすか産業まつり 2018
平成30年11月3日



第8回よこすか建設フェスタ
令和元年6月2日

かながわ しごと・技能体験フェスタ 2019
令和元年7月20・21日



各組合の紹介

■横須賀造園業組合

1. 設立年月日
 - ・大正6年11月に植木業組合として組合を結成する。
 - 組 合 長 岡本 勝治
 - 副組合長 斎藤 正二

2. 歴代の組合長

昭和31年	～	昭和33年	岡本	勝治
34年	～	38年	柴田	元吉
39年	～	46年	野原	茂昭
47年	～	50年	誉田	昭雄
51年	～	56年	柴田	鎗一郎
57年	～	平成3年	岡本	充雄
平成4年	～	8年	石原	宏明
9年	～	14年	安田	國男
15年	～	15年	中里	悦丸
16年	～	22年	浅川	新太郎
23年	～	28年	吉倉	一博
29年	～	現職	鈴木	伸夫

3. 組合員数
 - ・昭和30年12月「横須賀建設工連合会」に24名で参加して以来、38年には55名となり、48年以降は増加傾向をたどり、平成9年には130名を超える組合員数になりましたが、平成15年3月には121名で以後減少が続き、令和5年3月31日現在 58名

4. 現在の役員

組 合 長		鈴木	伸夫
副組合長		安田	成己
”		関	正太

5. その他
 - ・現在、神奈川県造園業協会横須賀支部・横須賀緑化造園協同組合の会員として広く横須賀三浦地域の造園事業や草花の栽培、販売事業等を行っている。

各組合の紹介

■三浦半島左官業組合連合会

一般社団法人横須賀三浦建設協会が創立50周年を迎えられたことを、心からお祝い申し上げます。

さて、当組合も創立63年目を迎えましたが、長引く不況と感染症の波にもまれ、役員及び組合員が懸命の努力を続けている現在です。

1. 設立年月日
 - ・昭和36年9月22日に大滝会館において5地区（横須賀・西部・浦賀・三崎・逗子葉山）の統合の初会式が行われました。
 - ・旧横須賀左官組合は、昭和30年12月6日に組合員数25名で「横須賀建設工連合会」に加盟しています。

2. 歴代の組合長

昭和36年	～	昭和41年	鈴木	勝蔵
42年	～	46年	龍崎	久蔵
47年	～	53年	鈴木	武男
54年	～	59年	海津	百三
60年	～	平成8年	田中	晴三
平成9年	～	13年6月	龍崎	喜久夫
13年7月	～	15年	鈴木	敏明
16年	～	22年	櫻井	健治
23年	～	27年	紙谷	保
28年	～	令和2年	山田	眞敏
令和3年	～	現職	山本	晃

3. 組合員数
 - ・昭和51年～57年には300名を超える組合員数でしたが、令和5年3月31日現在 62名

4. 現在の役員

組 合 長	山 本	晃
副組合長	田中 史昭、館花 猛、山下 文敏	
	石川 政一、山田 光雄	

5. その他
 - ・神奈川県左官組合連合会
 - 副 会 長 館花 猛
 - ブ ロ ッ ク 長 田中 史昭
 - 理 事 山田 光雄、後藤 浩一、菅 良一郎、山本 晃

各組合の紹介

■横須賀三浦板金工業組合

1. 設立年月日 ・不明ですが、昭和の初め頃、銅工業睦組合として設立され、昭和30年12月6日に組合員30名で、「横須賀建設工連合会」に加盟する。

組 合 長 柴崎 菊次郎

副組合長 酒井 鉄雄

〃 伏見 幸蔵

2. 歴代の組合長
- | | | | |
|--------|---|--------|-----------------|
| 昭和初期 | ～ | 昭和29年 | 八坂 久吉、村上 鶴之助が歴任 |
| 30年 | ～ | 36年 | 柴崎 菊次郎 |
| 37年 | ～ | 47年 | 高戸 栄之助 |
| 48年 | ～ | 63年 | 池谷 国雄 |
| 平成元年 | ～ | 平成6年5月 | 越谷 美代治 |
| 6年6月 | ～ | 18年5月 | 村上 誠一 |
| 18年6月 | ～ | 29年5月 | 和田 英則 |
| 29年6月 | ～ | 令和3年5月 | 荻野 圭吾 |
| 令和3年6月 | ～ | 現職 | 堀江 秀太郎 |

3. 組合員数 ・昭和51年～58年には120名を超える組合員がいましたが、平成6年には69名、令和5年3月31日現在 18名

4. 現在の役員
- | | |
|---------------|--------|
| 組 合 長 | 堀江 秀太郎 |
| 副組合長（三浦地区支部長） | 坂本 晃一 |

5. その他 ・親睦を深めるため日帰り旅行を行っています。



各組合の紹介

■横須賀電気組合

1. 設立年月日 ・昭和30年12月6日に設立し、昭和30年12月16日「横須賀建設工連合会」に加盟する。組合員数28名
 組 合 長 浅羽 富次
 副組合長 荒井 茂
2. 歴代の組合長
- | | | | |
|--------|---|--------|--------|
| 昭和34年 | ～ | 昭和36年 | 船山 竹雄 |
| 37年 | ～ | 39年3月 | 青木 繁雄 |
| 39年4月 | ～ | 40年2月 | 斎藤 清一郎 |
| 40年3月 | ～ | 平成6年5月 | 田邊 敏 |
| 平成6年5月 | ～ | 9年5月 | 山崎 一 |
| 9年6月 | ～ | 15年3月 | 内山 勝 |
| 15年4月 | ～ | 20年3月 | 青木 幹幸 |
| 20年4月 | ～ | 25年3月 | 西山 輝夫 |
| 25年4月 | ～ | 30年3月 | 田邊 泰正 |
| 令和元年4月 | ～ | 現職 | 伊東 誠 |
3. 組合員数 ・昭和52年～平成30年までは60名以上であったが、令和5年3月31日現在 56名
4. 現在の役員
- | | |
|--------|-------|
| 組 合 長 | 伊東 誠 |
| 健保事業委員 | 鈴木 和久 |
| 災防事業委員 | 伊東 誠 |
| 事業運営委員 | 伊東 孝志 |
| 会 計 | 田邊 泰正 |
5. その他 ・横須賀電気工事協同組合と共に、工事資材の確保、各種講習会、労働安全衛生研修会等を実施している。

各組合の紹介

■横須賀三浦表具経師内装組合

1. 組合の歴史

昭和28年、神奈川県表具工業協同組合理事長鈴木直蔵氏に今井竹男、荒井基両氏が横須賀経師業組合設立を相談。後に喜多小十氏、長谷川勇三郎氏、長谷川良三氏と6名が発起人となり設立に向けて活動、参加者を募る。同年組合がスタートし協会50周年の今年当組合は70周年を向かえます。横須賀三浦の組合員の技能、技術の高さ、業界への貢献は、県内はもとより全国でもずば抜けた評価を受けています。

チャーターメンバー 荒井久治郎、荒井基、今井竹男、喜多十三雄、斎藤正勝、斎藤松蔵、座間定雄、鈴木昭一、鈴木直蔵、田中時雄、長谷川勇三郎、長谷川良三、藤田従道、村田島吉、矢澤豊二

- ・昭和31年 横須賀建設工連合会に加入
- ・昭和42年 神奈川県表具経師組合連合会に加入、関東ブロック設立(後の中央ブロック連絡協議会)
- ・昭和44年 全国表具経師組合連合会設立
- ・昭和48年 設立20周年記念式典開催
- ・昭和49年 青年部(表友会)発足
- ・昭和51年 第1回作品展開催
- ・昭和58年 設立30周年記念式典開催
- ・平成6年 厚生大臣表彰(ボランティア功労賞)
- ・平成15年 設立50周年記念式典開催

2. 歴代の組合長

昭和28年～昭和31年	鈴木 直蔵	昭和55年～平成6年	鈴木 昭一
昭和31年～昭和33年	今井 竹男	平成6年～平成10年	鈴木 昭雄
昭和34年～昭和37年	荒井 基	平成10年～平成14年	篠田 義昌
昭和38年～昭和40年	今井 竹男	平成14年～平成18年	矢澤 秀夫
昭和41年～昭和49年	荒井久治郎	平成18年～平成20年	荒井 奎治
昭和49年～昭和51年	矢澤 豊二	平成20年～平成26年	日高 節男
昭和51年～昭和54年	座間 定雄	平成26年～令和4年	鈴木 勉
昭和54年～昭和55年	矢澤 豊二	令和4年～現職	鈴木 浩

3. 技能グランプリ入賞者(旧全国一級技能士競技大会)

昭和 60 年	篠田 義昌	表具職種	2 位	平成 8 年	鈴木 浩	壁装職種	3 位
昭和 61 年	鈴木 昭雄	表具職種	2 位	平成 10 年	鈴木 勉	表具職種	優勝
昭和 62 年	佐竹 秀幸	表具職種	3 位	平成 13 年	鈴木 勉	壁装職種	優勝
平成 8 年	矢澤 秀夫	表具職種	3 位	平成 31 年	鈴木 雄太	表具職種	3 位

4. 県技能コンクール優勝者

昭和 53 年 第 10 回	篠田 義昌	平成 9 年 第 29 回	篠田 文隆
昭和 55 年 第 12 回	長田 久夫	平成 18 年 第 38 回	荒井 彰
昭和 60 年 第 17 回	鈴木 勉	平成 19 年 第 39 回	鈴木 雄太
昭和 61 年 第 18 回	鈴木 浩	平成 22 年 第 42 回	佐々木慎悟
平成 5 年 第 25 回	黒岩 征光		

5. 叙勲・褒章・厚生労働大臣卓越(現代の名工)

昭和 59 年 厚生労働大臣卓越	荒井久治郎	平成 27 年 黄綬褒章	鈴木 昭雄
平成 20 年 厚生労働大臣卓越	鈴木 昭一	平成 29 年 厚生労働大臣卓越	矢澤 秀夫
平成 24 年 黄綬褒章	鈴木 昭一	平成 31 年 黄綬褒章	矢澤 秀夫
平成 24 年 厚生労働大臣卓越	鈴木 昭雄		

6. 上部団体役員

神奈川県連

昭和 25 年～30 年	鈴木 直蔵	神奈川県表具工業協同組合	理事長
昭和 50 年～61 年	荒井久治郎	神奈川県表具経師内装組合連合会	副会長
平成 14 年～17 年	鈴木 昭一	神奈川県表具経師内装協同組合	理事長
平成 18 年～25 年	鈴木 昭雄	神奈川県表具経師内装協同組合	理事長
平成 30 年～	鈴木 浩	神奈川県表具経師内装協同組合	専務理事

ブロック(関東甲信越1都9県)

平成 14 年～17 年	鈴木 昭一	全表連中央ブロック連絡協議会	常任理事
平成 24 年～27 年	鈴木 昭雄	全表連中央ブロック連絡協議会	副理事長
令和 5 年～	鈴木 浩	全表連中央ブロック連絡協議会	理事長

全国組合

昭和 25 年～30 年	鈴木 直蔵	全国表具商工業協同組合	理事
平成 14 年～17 年	鈴木 昭一	全国表具経師内装組合連合会	常任理事
平成 24 年～25 年	鈴木 昭雄	全国表具経師内装組合連合会	監事
令和 5 年～	鈴木 浩	全国表具経師内装組合連合会	副会長

各組合の紹介

■横須賀石材工業組合

1. 沿革

- ・昭和7年7月7日 事務所 横須賀市佐野6-8に設立
- ・昭和27年より石工組合活性活動により市内12店舗、会員数22名の横須賀石材工業組合の活動が、本格的に始まりました。
- ・昭和31年に横須賀建設工組合、現在の一般社団法人 横須賀三浦建設協会に加盟
- ・昭和48年に神奈川県石材業連合会に発足と同時に加盟
- ・同年、(一社)横須賀三浦建設協会訓練校 石材科を開設し一期生3名が入校しその後、平成8年二期生より平成14年五期生までに計23名が経験を通して知識や技能を取得しました。
- ・地域社会貢献活動として横須賀市消費生活センターの依頼により墓地・墓石の選び方講座の開設やよこすか建設フェスタに出展してまいりました。
- ・現在の加盟数10社 組合員数19名
- ・歴史ある横須賀石材工業組合としてできること探求し、地域の墓守りとしての活動をしていきます。

2. 展望

- ・近年の「墓じまい」などの風潮により、墓石業界を取り巻く環境もこの数年大きな変化をとげてきています。また、墓石本体の「小規模化」や「墓離れ」という現実が、目の前にはっきりと表れています。

組合としての地域や社会貢献、また技術面の一般消費者へのPRなどを通じ、頼れる石材組合の存続の確立を新たな起点として、組合員一同とともに活動を高め、(一社)横須賀三浦建設協会、神奈川県石材業連合会事業に協力推進してゆきたいと思っております。



令和4年 組合親睦旅行 愛媛方面

代役員名簿

度 年	組 合 長	副組合長	副組合長	会 計 長	幹 事 長	青年部長
平成 16 年	大橋一二三	石川勝久	小池修一	鈴木 茂	塚越学財	瀧澤和正
平成 17 年	大橋一二三	鈴木 茂	田中正典	脇 通真	塚越学財	瀧澤和正
平成 18 年	大橋一二三	鈴木 茂	田中正典	脇 通真	塚越学財	瀧澤和正
平成 19 年	鈴木 茂	大橋理宏	田中正典	脇 通真	塚越学財	大橋理宏
平成 20 年	鈴木 茂	大橋理宏	田中正典	脇 通真	塚越学財	大橋理宏
平成 21 年	鈴木 茂	大橋理宏	田中正典	脇 通真	塚越学財	新倉雅士
平成 22 年	鈴木 茂	大橋理宏	田中正典	脇 通真	塚越学財	新倉雅士
平成 23 年	鈴木 茂	大橋理宏	田中正典	脇 通真	塚越学財	田中健一郎
平成 24 年	田中正典	大橋理宏	瀧澤和正	脇 通真	塚越学財	田中健一郎
平成 25 年	大橋理宏	新倉雅士	瀧澤和正	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
平成 26 年	大橋理宏	新倉雅士	瀧澤和正	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
平成 27 年	大橋理宏	新倉雅士	瀧澤和正	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
平成 28 年	大橋理宏	新倉雅士	瀧澤和正	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
平成 29 年	大橋理宏	新倉雅士	小原直樹	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
平成 30 年	大橋理宏	新倉雅士	小原直樹	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
令和元年	瀧澤和正	新倉雅士	小原直樹	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
令和 2 年	瀧澤和正	新倉雅士	小原直樹	脇 通真	田中健一郎	鈴木俊充
令和 3 年	新倉雅士	田中健一郎	小原直樹	脇 通真	吉崎 岳	鈴木俊充
令和 4 年	新倉雅士	田中健一郎	小原直樹	脇 通真	吉崎 岳	鈴木俊充
令和 5 年	新倉雅士	吉崎 岳	小原直樹	脇 通真		鈴木俊充



平成 30 年 組合親睦旅行 広島方面

各組合の紹介

■横須賀畳工業組合

1. 設立年月日
- ・嘉永 5 年（1852 年）に畳組合の設立の記録が残っている。
 - ・昭和初期になり食糧増産のため「いぐさ」の生産が制限された。
 - ・昭和 16 年には戦時統制令によって横須賀三浦地区の組合員 96 名すべてが株主となり、横須賀畳工業株式会社が設立され、軍需畳のみに限り生産を続けてきた。
 - ・昭和 25 年に統制が撤廃され、組合員は自由営業ができるようになった。この年、旧組合も横須賀、三浦、逗葉の三組合となり、活発に活動の場を与えられることになった。
 - ・昭和 32 年 7 月 16 日、横須賀地区建設労働組合連合会に加盟する。
- 組 合 長 相川 金次
組 合 員 数 約 36 名

2. 歴代の組合長

昭和 32 年～昭和 35 年	相川 金次	平成元年～平成 4 年	小山 潔
35 年～ 38 年	上田 松男	4 年～ 6 年	松本 栄治
38 年～ 41 年	石井 福蔵	6 年～ 9 年	石井 隆
41 年～ 44 年	松本 竹雄	9 年～ 12 年	浅葉 幸雄
44 年～ 47 年	上田 松男	12 年～ 14 年	柴田 穰治
47 年～ 49 年	相川 伊佐	14 年～ 17 年	相川 勇
49 年～ 52 年	高橋 敏夫	17 年～ 20 年	石井 元日出
52 年～ 54 年	鈴木 正夫	20 年～ 22 年	石井 清一
54 年～ 57 年	浅葉 栄八	22 年～ 26 年	永野 明正
57 年～ 60 年	吉崎 真吉	26 年～ 30 年	秋本 義和
60 年～ 平成元年	鈴木 康之	30 年～ 現職	根本 国彦

3. 組合員数
- ・昭和 44 年から平成 8 年の 28 年間は 104 名を最高にして 90 名で推移していたが、令和 5 年 3 月 31 日現在 27 名

4. 現在の役員
- 組 合 長 根本 国彦
副 組 合 長 鈴木 弘之
健保事業委員 秋本 義和
国 保 担 当 秋本 義和
事業運営委員 鈴木 弘之

各組合の紹介

■横須賀建具組合

1. 設立年月日 ・昭和34年7月17日に横須賀地区建設労働組合連合会に加盟する。
組 合 長 滝野 金七

2. 歴代の組合長 昭和34年7月 ～ 昭和39年3月 滝野 金七
39年4月 ～ 51年5月 脇 広造
51年6月 ～ 54年5月 小川 道太郎
54年6月 ～ 平成6年5月 古谷 久吉
平成6年6月 ～ 17年5月 川鍋 昭
17年6月 ～ 29年5月 上野 勉
29年6月 ～ 現職 古谷 和久

3. 組合員数 ・令和5年3月31日現在 7名

4. 現在の役員 組合長 古谷 和久

5. その他 組合員は7名になりましたが、各イベントには、建具職の認知度向上のため、積極的に参加し広報活動をしています。

各組合の紹介

■横須賀瓦屋根組合

1. 設立年月日 ・昭和43年8月3日に「横須賀地区建設労働組合連合会」に加盟する。
 組 合 長 石井 未六郎
 組合員数 22名
2. 歴代の組合長
- | | | | |
|--------|---|---------|--------|
| 昭和43年 | ～ | 昭和57年5月 | 石井 未六郎 |
| 57年6月 | ～ | 63年5月 | 神守 菊夫 |
| 63年6月 | ～ | 平成6年5月 | 山本 利男 |
| 平成6年6月 | ～ | 9年5月 | 大橋 正 |
| 9年6月 | ～ | 29年5月 | 神守 陽一 |
| 28年4月 | ～ | 令和元年3月 | 石井 郁也 |
| 令和元年4月 | ～ | 3年3月 | 小牧 潔 |
| 3年4月 | ～ | 5年3月 | 長島 直二 |
| 5年4月 | ～ | 現職 | 石井 基也 |
3. 組合員数 ・令和5年3月31日現在 7事業所
4. 現在の役員
- | | |
|---------|-------|
| 組 合 長 | 石井 基也 |
| 副 組 合 長 | 小牧 潔 |
| 健保事業委員 | 小牧 潔 |
| 災防事業委員 | 石井 基也 |
| 産廃事業委員 | 長島 直二 |

年表

期	年	理事長	協会の出来事	時代背景
	昭和30年	斎藤喜久蔵	「横須賀建設工連合会」大工・鳶職・植木・左官・銅工の5組合、177名で設立(12/6) 電工労組合加盟(12/16)	
	昭和31年		経師組合加盟(2/3)、石工組合加盟(3/3) 第1回定期総会(7/16 上町広町部会) 「横須賀地区建設労働組合連合会」と改称(11/3)	
	昭和32年		畳組合加盟(7/16) 龍本寺供養塔引継(10/3 下町組合より)	
	昭和33年		小泉純也氏を顧問として迎える(4/3) 「横須賀建築技能共同職業訓練所」開校(7/1 上町田戸部会2階) 太子山住職による物故者供養(7/22)	「東京タワー」竣工(12/23)
	昭和34年		連合会専用の事務所建設が決まる(5/3) 建具組合加盟(7/17)	
	昭和35年		「建設会館」地鎮祭(1/28) 「建設会館」落成式(5/21)	「日米安保条約」発効(6/23)
	昭和36年			
	昭和37年			
	昭和38年			「ケネディー大統領暗殺」(11/22)
	昭和39年		三上千代造	
	昭和40年			
	昭和41年	「建設労働組合連合会」脱退		
	昭和42年	「協会旗」入魂式(1/3)		
	昭和43年	瓦組合加入(8/3)		「三億円事件」(12/10)
	昭和44年	「建設会館」増築工事完成(6/7)		「アポロ11号」月面着陸(7/20)
	昭和45年	「神奈川県建設業国民健康保険組合」結成(7/13)1		「日本万国博覧会」開幕(3/15)
	昭和46年			
	昭和47年	「横須賀建設組合総合高等職業訓練校」発足(4/5 衣笠行政センター) 会費300円から400円に値上げ 「関連団体協議会」が5団体で発足		「あさま山荘事件」(2/28) 「横井正一氏」グアムから帰還(2/2)
1	昭和48年	三上千代造		(社)横須賀三浦建設協会設立(11/5) 会費700円に値上げ
	昭和49年		第1回通常総会を文化会館で行う(6/28)	「小野田寛郎氏」ルバング島から帰還(3/12) 七夕災害(7/6 台風8号)
	昭和50年		20周年記念事業として「広報誌」発行	
2	昭和51年			
	昭和52年			
	昭和53年	職業訓練校開校20周年記念(11/11)	「宮城県沖地震」(6/12)	
3	昭和54年	竜崎久蔵	「創立5周年」記念	「木建協横須賀地区会」設立
	昭和55年			
	昭和56年			建築基準法「新耐震基準」制定(6/1)
4	昭和57年	駒林喜弘	会費1300円に値上げ	
	昭和58年			
	昭和59年		「創立10周年」記念	

期	年	理事長	協会の出来事	時代背景
5	昭和60年			「日航ジャンボ機」墜落(8/12)
	昭和61年		会費1500円に値上げ	
	昭和62年			
6	昭和63年	田邊 敏		
	平成1年		「創立15周年」記念	「昭和天皇」崩御(1/7) 「消費税3%」(4/1)
	平成2年			
7	平成3年	田中晴三	会費2000円に値上げ	
	平成4年			
	平成5年		「建設会館」土地取得(3/17)	
8	平成6年			「松本サリン事件」(6/27)
	平成7年			「阪神・淡路大震災」(1/17) 「地下鉄サリン事件」(3/20)
	平成8年			
9	平成9年	青木明義		「消費税5%」(4/1)
	平成10年			
	平成11年			
10	平成12年			建築基準法「最新の耐震基準」(6/1)
	平成13年		小泉純一郎氏、内閣総理大臣任命(4/26)	「アメリカ同時多発テロ」(9/11)
	平成14年		「建設会館」改修①	「北朝鮮拉致5人帰国」(10/15)
11	平成15年	朝倉輝充	「創立30周年」記念誌“あゆみ”発行 「建設会館」改修②	
	平成16年		「建設会館」改修③	「新潟中越地震」(10/23)
	平成17年		「建設会館」改修④	
12	平成18年			
	平成19年			
	平成20年		「総合高等職業訓練校」休校(4/1)	「リーマンショック」(9/15)
13	平成21年	櫻井健治	小泉進次郎氏、衆議院議員選挙初当選(8/30)	
	平成22年			
14	平成23年			「東日本大震災」(3/11)
	平成24年			
15	平成25年		「一般社団法人横須賀三浦建設協会」 公益法人として登記(4/1)	
	平成26年		龍本寺供養塔慰霊祭廃止(6/22)	「消費税8%」(4/1)
16	平成27年			
	平成28年			「熊本地震」(4/14.16)
17	平成29年	金崎富男		
	平成30年			「大阪府北部地震」(6/18) 「北海道胆振東部地震」(9/6)
18	令和1年		会費2500円に値上げ 小泉進次郎氏、環境大臣初入閣(9/11 男子戦後最年少)	「消費税10%」(10/1) 「令和元年房総半島台風15号」(9/9) 「令和元年東日本台風19号」(10/12)
	令和2年			新型コロナウイルス「緊急事態宣言」(4/7) 「東京オリンピック」1年延期
19	令和3年			「東京オリンピック」開幕(7/23)
	令和4年			ロシア、ウクライナに軍事侵攻(2/24)

総合高等職業訓練校のあゆみ

戦後10数年、社会もやっと落ち着きを取り戻して神武景気といわれる好景気を迎えてつつある時期、急激な大工組合員の増化現象が生じました。

組合員の技能の向上と、後継者の育成を図るために、訓練校の前身である「横須賀建築技能共同職業訓練所」を開設したのは、昭和33年7月1日の暑い日のことでありました。

■ 横須賀建築技能共同職業訓練所時代

昭和33年 建築大工科70余名の開講式を9月22日に横須賀商工会議所にて行い、田戸部会を教室として授業が開始された。

昭和35年 6月より建設会館の完成に伴い、新鮮な木の香りの漂う建設会館の2階に教室を移転させて、充実した授業を展開した。

授業内容は建築概論・建築材料等の建築関係とともに、国語・社会・数学・物理・化学・英語・体育もあり、創世記の意気込みの高さがしのばれる。

昭和36年 昼間の仕事の疲れと闘いながらの3年間の勉学の結果、3月に建築大工第1期生57名が終了式を迎える。

昭和38年 3月：第2期生25名が終了式を迎える。

昭和41年 3月：第3期生27名が終了式を迎える。

昭和44年 3月：第4期生36名が終了式を迎える。

昭和45年 訓練所(校)の卒業生により、同窓会を作ろうとする機運が盛り上がり、10月25日に第1回の同窓会を開催した。

以後、横須賀職業訓練校OB会と命名し、毎年親睦を兼ねての旅行、見学、研修会やソフトボール大会などを実施した。また、市内の小学校の渡り廊下の「すのこ」作り等の奉仕活動も続けた。このOB会が昭和63年10月の横須賀大工組合青年部の誕生(それ以前に横須賀三浦建設協会の青年部は存在していた)につながったが、現在は解散されている。

昭和47年 3月：第5期生49名が終了式を迎える。

昭和47年3月までに建築大工の修了生は合計192名に達し、横須賀三浦地域の建設業の推進力となった。

また、現在、訓練校の卒業生は、建設協会の各単組の中核として活躍している。

■ 社団法人横須賀三浦建設協会総合高等職業訓練校時代

- 昭和 47 年 4 月：建設会館から横須賀市衣笠行政センターに移転するとともに、他の組合も養成訓練事業を開始した。
- 昭和 50 年 3 月：建築大工科第 6 期生 45 名、左官タイル施工科第 1 期生 3 名、建築板金科第 1 期生 3 名、石材加工科第 1 期生 3 名、表具科第 1 期生 1 名、畳科第 1 期生 1 名、電気工事科第 1 期生 1 名が前田七之助校長から修了証書を授与された。
- 昭和 53 年 3 月：建築大工科第 7 期生 24 名、左官タイル施工科第 2 期生 6 名、建築板金科第 2 期生 6 名が修了した（校長：前田七之助氏）。
11 月 11 日：職業訓練校開設 20 周年記念行事を職業訓練校において行う
- 昭和 56 年 3 月：建築大工科第 8 期生 31 名、左官タイル施工科第 3 期生 4 名、建築板金科第 3 期生 6 名が池谷国雄校長から修了証書を受理された。
- 昭和 59 年 3 月：建築大工科第 9 期生 20 名、左官タイル施工科第 4 期生 9 名、建築板金科第 4 期生 6 名が修了した（校長：池谷国雄氏）。
- 昭和 62 年 3 月：建築大工科第 10 期生 11 名、左官タイル施工科第 5 期生 7 名が浅羽勉校長から修了証書を受理された。
- 平成 2 年 3 月：建築大工科第 11 期生 8 名、左官タイル施工科第 6 期生 1 名が修了した（校長：池谷国雄氏）。
- 平成 5 年 3 月：木造建築科第 12 期生 14 名が修了した（校長：池谷国雄氏）。
4 月の入学者から普通科目の履修を廃止するとともに、修了年限も 2 年間に改正した。
- 平成 7 年 3 月：木造建築科第 13 期生 13 名、左官タイル施工科第 7 期生 7 名が青木明義校長から修了証書を授与された。
- 平成 9 年 3 月：木造建築科第 14 期生 10 名、左官タイル施工科第 8 期生 2 名とともに、久しぶりに石材加工科第 2 期生 7 名が修了した（校長：青木明義氏）。
- 平成 11 年 3 月：木造建築科第 15 期生 8 名、石材加工科第 3 期生 5 名が山田寿尾校長から修了証書を授与された。
- 平成 13 年 3 月：木造建築科第 16 期生 9 名、左官タイル施工科第 9 期生 3 名、石材加工科第 4 期生 4 名が修了した（校長：山田寿尾氏）。
- 平成 15 年 3 月：木造建築科第 17 期生 9 名、石材加工科第 5 期生 3 名が鈴木秀明校長から修了証書を授与された。
- 平成 17 年 3 月：木造建築科第 18 期生 2 名、左官タイル施工科第 10 期生 5 名が修了した（校長：鈴木秀明氏）。
- 平成 19 年 3 月：木造建築科第 19 期生 6 名が修了した（校長：鈴木秀明氏）。
- 平成 21 年 3 月：木造建築科第 20 期生 5 名が修了した（校長：鈴木秀明氏）。
4 月、神奈川県から補助金が交付される生徒規定数 5 名を割り、応募生徒が不足したことから訓練校継続が困難となり、神奈川県知事あて「認定職業訓練校休止届」を提出し、現在に至る。

■ 学科別修了者数

昭和33年7月の開校から平成21年の休校するまでの51年間に502人の人材を地域に送り出し、生活環境の充実・発展に寄与してきました。

(人)

卒業	建築大工科		左官タイル施工科		建築板金科		電気工事科		表具科		石材加工科		畳科		合計
	期	修了者	期	修了者	期	修了者	期	修了者	期	修了者	期	修了者	期	修了者	
S36	1	57													57
S38	2	25													25
S41	3	27													27
S44	4	36													36
S47	5	49													49
S50	6	45	1	3	1	3	1	1	1	1	1	3	1	1	57
S53	7	24	2	6	2	6									36
S56	8	31	3	4	3	6									41
S59	9	20	4	9	4	6									35
S62	10	11	5	7											18
H2	11	8	6	1											9
H5	12	14													14
H7	13	13	7	7											20
H9	14	10	8	2							2	7			19
H11	15	8									3	5			13
H13	16	9	9	3							4	4			16
H15	17	9									5	3			12
H17	18	2	10	5											7
H19	19	6													6
H21	20	5													5
合計		409		47		21		1		1		22		1	502